

## 仕様書等の一部訂正について

令和8年1月15日付けで公告した「7年度上川北部署【前珊瑚地区その4】保全整備（保育間伐等・地拵・植付）第5号」の仕様書等について下記のとおり訂正します。

令和8年1月20日

分任支出負担行為担当官  
上川北部森林管理署長 赤羽根 浩

### 1. 修正箇所及び内容

#### 仕様書等 1

##### ・別紙

「北海道内におけるナラ枯れ被害木等の伐採・移動に関する指針」が未添付だったため追記

##### ・特記仕様書

「北海道内におけるナラ枯れ被害木等の伐採・移動に関する指針」に基づく事項の記載が未記載だったため追記

#### 仕様書等 3

##### ・位置図

既設森林作業道及び既設土場が明示されていなかったため、追記

# 北海道内におけるナラ枯れ被害木等の 伐採・移動に関する指針

北海道水産林務部林務局森林整備課

北海道ナラ枯れ被害対策基本方針（令和6年森整第1080号）第3の3(3)アに定めるナラ類等の伐採・移動について、次のとおり定める。

## 1 目的

近年、カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」という。）が媒介する病原菌「ナラ菌」により、ナラ類等が集団的に枯死する「ナラ枯れ」が全国的に発生しています。

カシナガは体長5mm程度の虫で、6月～8月頃にナラ類等の幹に入り込みます。カシナガが持ち込むナラ菌が増殖した木の多くは、その年の8月～9月頃には枯死します。

北海道では令和5(2023)年度に初めてナラ枯れが確認され、令和6(2024)年度には、その被害が拡大しており、今後も被害の更なる拡大や長期化が懸念されています。

道では、ナラ枯れ被害の拡大防止に向けて、林業・木材産業関係者の皆様が被害地域等でナラ類等の伐採や移動を行う際に守っていただきたい事項を、留意事項としてとりまとめましたので、対応についてのご協力をお願いします。

## 2 留意事項

### (1) 被害地域でのナラ類等の伐採/処理（被害木）

#### ・被害木は、5月末までに適切に伐採・処理する

\*被害木にはカシナガが潜んでいるおそれがあります。6月～9月はカシナガが被害木から羽化・脱出する時期（以下「脱出時期」という。）であり、新たな被害が発生することが懸念されます。

#### ・被害木は、「伐採後速やかに搬出・処理する」など、適切な処理を行う。

\*被害木を伐採後に、林内に集積しておくと、カシナガを誘引し、被害拡大につながることが懸念されます。

⇒道は、試験研究機関の協力のもと、被害木の適切な処理方法を「ナラ枯れ被害木処理マニュアル」として整理・公表しています。マニュアルに沿った処理をお願いします。

#### ・山土場や製材工場土場などの丸太から穿入痕が確認された場合も、被害木同様に扱う。

\*山土場や製材工場土場などの丸太に穿入痕が確認された場合、その丸太からカシナガが羽化・脱出し、新たな被害が発生することも懸念されます。

⇒道の処理マニュアルに定める方法に準じ、くん蒸・チップ化・焼却等による処理をお願いします。なお、材の大きさなどの状況により、マニュアルに沿った処理が困難な場合は個別に検討します。また、薬剤を用いた、くん蒸処理後の材の活用の適否は、各実施主体において薬剤メーカーに確認するなど、適切に対応して下さい。

## (2) 被害地域でのナラ類等の伐採（未被害木）

### ・被害地域では、ナラ類等を6月から9月の間は伐採しない

\* ナラ類等の伐採や枝払い等を脱出時期に行なうことは、近隣に生息するカシナガを誘引し、被害の拡大につながります。なお、ナラ類等を単木的に除外して施業を行うことが困難な場合は、伐採後速やかに林外に搬出してください。

### ・未被害木についても、「伐採後速やかに搬出する」など、適切な対応を行う。

\* 未被害木でも伐採後に林内に集積しておくとカシナガを誘引し、被害拡大につながることが懸念されますので、特に6月～9月の間は被害地域及び被害監視地域内の林内に集積・保管しないとともに、野外での集積・保管も極力行わないで下さい。

### ・林外に搬出した材についても、5月末までに焼却・破碎・製材等を極力行う。

\* 林外に搬出した材にカシナガが穿入していた場合、丸太からカシナガが脱出する可能性があることから、脱出時期前の5月末までに焼却等を行うことが望ましいです。

## (3) 被害地域から未被害地への移動（被害木、未被害木）

### ・被害木は移動しない。未被害木であっても極力移動は行わない。

\* カシナガの穿入痕は小さく発見しづらく被害の判定が難しいことがあります。未被害木でどうしても移動が必要な場合には、移動前及び移動後にカシナガの穿入痕がないか十分確認して下さい。

### ・販売者は、販売先や譲渡先等木材の受け入れ先に通知書を配布する（道に写しを提出）

\* 被害地域から搬出された材であることや、受入材が被害発生リスクのあることを地域で共有するため、未被害のナラ類等を移動する場合には販売者は受け入れ先に対し、通知書を提出して下さい。また、受け入れ先に対して、脱出時期前の5月末までに焼却・破碎・製材等を極力行うよう伝達してください。

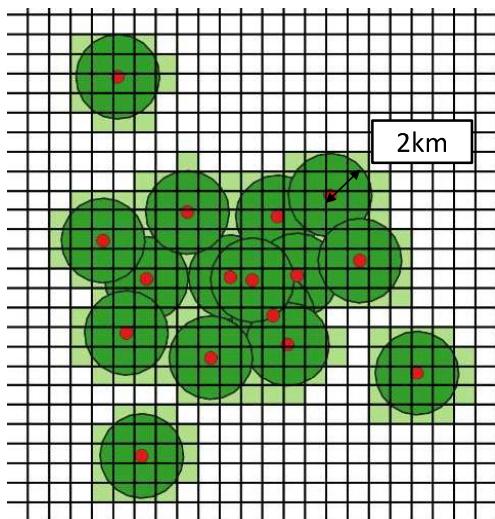
⇒当年度以降の「被害監視区域」を設定する参考としますので、道への通知書（写）提出にもご協力を願います。

## <参考>

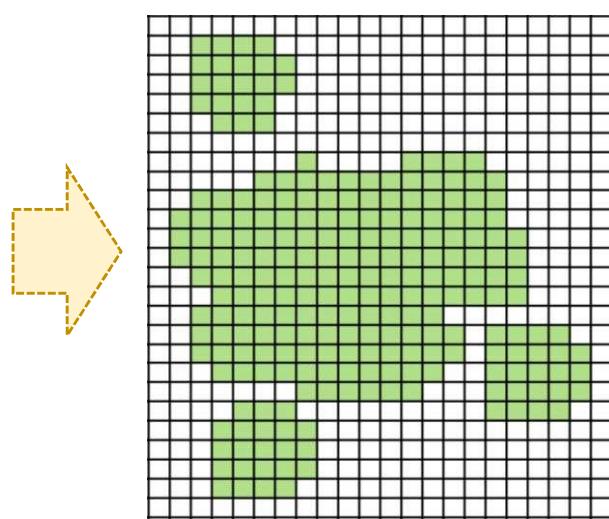
### 1 被害地域の考え方

【これまで分かっていること】

- ・被害地域内の立木には、カシナガが侵入する可能性がある。  
(脱出時期（6～9月）の伐採・搬出には要注意。  
被害木の確認された周囲（半径1～2km）での被害には要注意)
- ・伐採後の丸太には、カシナガを誘引する揮発成分がある（被害木でなくても同様）
- ・立ち枯れ木だけでなく、土場の丸太にもカシナガは侵入し、増殖・脱出する



【被害木及び被害木周辺】



【被害地域】

<凡例>

- ・赤点・・・被害木
- ・緑色・・・被害木から半径2kmの円
- ・薄緑色・・・被害地域（半径2kmの円と全部または一部が重なるメッシュ）
- ・白色・・・未被害地
- ・メッシュ・・・国土交通省が公開している1kmメッシュ

#### ○被害地域図作成の手順

##### (1) 被害地域の作成

被害木から半径2kmの円と重なるメッシュ把握

##### (2) 被害地域の図示

円及び被害木を消した図を作成・公開

### 2 各種用語の定義

#### ○ナラ類等

- ・「ミズナラ、コナラ、アカナラ、カシワなどのナラ類やクリ」など、北海道に生育し、ナラ枯れ被害を受ける樹木をいう。なお、ブナは「ナラ枯れ」をうけない

#### ○被害木

- ・カシナガによるナラ枯れの被害木（枯死木、カシナガの穿入が認められる生立木）

#### ○被害地域

- ・前年又は当年に確認された「被害木から半径2kmの円と一部でも重なるメッシュの範囲」。メッシュは国土交通省が公開している1kmを使用。被害地域は毎年度、上空調査の結果を踏まえて変更する。

\*被害地域は、被害木の発生状況を踏まえ、適宜更新し、道のホームページで公表

<水産林務部林務局森林整備課 HP> <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/>

#### <お問い合わせ先>

- ・北海道 水産林務部 林務局 森林整備課
- ・最寄りの（総合）振興局 産業振興部 林務課 森林整備係

# ナラ枯れ被害地域におけるナラ類等の伐採・移動通知書

年　月　日

(受け入れ先) 様

(受け入れ先住所)

(木材集積場所の住所)

(受け入れ先電話番号)

(販売者住所)

(販売者氏名)

(販売者連絡先電話番号)

この木材には、ナラ枯れの被害材が混入しているおそれがありますので、「北海道内におけるナラ枯れ被害木等の伐採・移動に関する指針」に基づき、次のとおり通知します。

記

## 1 ナラ枯れ被害の監視について

ナラ枯れの被害材が混入していた場合、周囲でナラ枯れが発生する可能性がありますので、本木材を集積する箇所の半径2kmの範囲内にナラ枯れ被害が発生していないか、自主的に被害の監視を行ってください（特に8月～9月にかけて枯死することが多いため、この時期は重点的に監視を行ってください）。

## 2 ナラ枯れ被害対応

### (1)本木材からカシナノナガキクイムシの穿入痕と疑われる痕が見つかった場合

速やかに最寄りの（総合）振興局産業振興部林務課森林整備係まで連絡してください。

その後、道や試験研究機関による調査の結果、ナラ枯れ被害材と判定された場合は、被害材の処理が必要となります。処理については、販売者・受け入れ者で協議を行う必要があるので、被害材であることが判明した場合、受け入れ者は速やかに販売者に連絡してください。

### (2)集積場所周辺でナラ枯れ被害が疑われる樹木が見つかった場合

ナラが枯死し、木の根元に木くずや糞の混合物（フ拉斯）が堆積している場合や、幹に穿入した痕跡がある場合などナラ枯れ被害が疑われる樹木が見つかった場合は、速やかに最寄りの（総合）振興局産業振興部林務課森林整備係まで連絡してください。

#### 【注意】

- 販売者は、本通知書の写しを北海道水産林務部林務局森林整備課に提出してください。  
< FAX : 011-232-1297 メール : suirin.shinsei2@pref.hokkaido.lg.jp >
- また、販売者は受け入れ者から被害材であることが判明した旨の連絡があった場合、伐採が行われた位置（市町村や林小班など）がわかる情報の提供にも協力してください。  
\*伐採地のわかる書類を通知毎に整理しておくと、連絡後の確認が容易です。  
例：合法性証明として活用できる書類（「伐採及び伐採後の造林の届出書」や  
「森林管理署等と交わした売買契約書」など）の写しを通知と併せて保管
- 販売者が新たな受け入れ先に通知を行う際には、本通知書に、
  - 「北海道ナラ枯れ被害対策基本方針」
  - 「北海道内におけるナラ枯れ被害木等の伐採・移動に関する指針」
  - 「ナラ枯れ周知用パンフレット（ナラ枯れかも！！情報提供にご協力ください）」を添付し、ナラ枯れ被害の注意喚起をしてください  
(北海道水産林務部林務局森林整備課のホームページから入手できます)
- 「木材集積場所住所」には販売者が把握している集積場所（荷下ろしを行う工場土場等）を記載してください。複数の場所に荷下ろし・集積する場合は全て記載してください。  
受け入れ者が集積場所を移動した場合、受け入れ者は移動先で監視を行ってください。

【誤】

## 特記仕様書

7年度上川北部署【前珊瑚地区その4】保全整備（保育間伐等・地拵・植付）第5号について、下記の事項を定める。

記

### 1 伐採について

- (1) 当該事業においては、調査木の標示（ナンバーテープ）の有無にかかわらず列状間伐ができるものとする。
- (2) 調査木の標示（ナンバーテープ）がある立木を伐採しない場合、標示を剥がす必要はない。

### 2 保安林該当の有無

当該事業の事業地は全て保安林外である。

### 3 システム販売

当該事業から出材される素材がシステム販売の対象となった場合は、採材寸法及び検知等について別途指示する。

### 4 既設道の維持修繕・除雪に関する事項

#### (1) 既設道の維持修繕及び敷砂利について

土場と林道を結ぶ既設道については、車両の通行に支障がないように路体の維持修繕を行うこととし、次に定める仕様により敷砂利を行うものとする。

- ① 敷 幅：3mの範囲内
- ② 敷 厚：10cm
- ③ 切込砂利：0～80mm 級

なお、敷砂利分の「納入伝票」及び「納品書等」を（部分）完了検査時に提出すること。

※納品書等とは、碎石プラント等から受注者に対し、当該数量を納品したことを証明する一覧表とする。

#### (2) 除雪

当該事業の事業地へ通じる通勤路（公道を除く。）については、車両の通行に支障がないよう、除雪を行うものとする。

### 5 誤伐防止

誤伐防止のため別紙「誤伐防止のためのチェックポイント」を事業計画書の承認を受けた後、事業着手前に提出すること。

### 6 土場への敷砂利

各土場について、運材に支障がないよう次に定める仕様により敷砂利を行うものとする。

- ① 敷 幅：3mの範囲内
- ② 敷 厚：10cm
- ③ 切込砂利：0～80mm 級

## 7 濁水防止対策

事業地の下流に上水道取水施設があることから、事業計画書に濁水対策（施工時期、予定工法）を記載すること。

## 8 植付

植付作業で使用するコンテナ苗木について、北海道森林管理局と下記苗木生産者で「コンテナ苗の苗木安定需給協定」締結している苗木を使用すること。

生産者	樹種	規格	数量
北振種苗有限会社 北海道紋別郡雄武町字中雄武 108 番地 TEL0158-84-3820	トドマツ	1号 (300cc)	1,600 本
	クリーンラーチ	1号 (150cc)	700 本

【正】

## 特記仕様書

7年度上川北部署【前珊瑚地区その4】保全整備（保育間伐等・地拵・植付）第5号について、下記の事項を定める。

記

### 1 伐採について

- (1) 当該事業においては、調査木の標示（ナンバーテープ）の有無にかかわらず列状間伐ができるものとする。
- (2) 調査木の標示（ナンバーテープ）がある立木を伐採しない場合、標示を剥がす必要はない。

### 2 保安林該当の有無

当該事業の事業地は全て保安林外である。

### 3 システム販売

当該事業から出材される素材がシステム販売の対象となった場合は、採材寸法及び検知等について別途指示する。

### 4 既設道の維持修繕・除雪に関する事項

#### (1) 既設道の維持修繕及び敷砂利について

土場と林道を結ぶ既設道については、車両の通行に支障がないように路体の維持修繕を行うこととし、次に定める仕様により敷砂利を行うものとする。

- ① 敷 幅：3mの範囲内
- ② 敷 厚：10cm
- ③ 切込砂利：0～80mm 級

なお、敷砂利分の「納入伝票」及び「納品書等」を（部分）完了検査時に提出すること。

※納品書等とは、碎石プラント等から受注者に対し、当該数量を納品したことを証明する一覧表とする。

#### (2) 除雪

当該事業の事業地へ通じる通勤路（公道を除く。）については、車両の通行に支障がないよう、除雪を行うものとする。

### 5 誤伐防止

誤伐防止のため別紙「誤伐防止のためのチェックポイント」を事業計画書の承認を受けた後、事業着手前に提出すること。

### 6 土場への敷砂利

各土場について、運材に支障がないよう次に定める仕様により敷砂利を行うものとする。

- ① 敷 幅：3mの範囲内
- ② 敷 厚：10cm
- ③ 切込砂利：0～80mm 級

## 7 濁水防止対策

事業地の下流に上水道取水施設があることから、事業計画書に濁水対策（施工時期、予定工法）を記載すること。

## 8 植付

植付作業で使用するコンテナ苗木について、北海道森林管理局と下記苗木生産者で「コンテナ苗の苗木安定需給協定」締結している苗木を使用すること。

生産者	樹種	規格	数量
北振種苗有限会社 北海道紋別郡雄武町字中雄武 108 番地 TEL0158-84-3820	トドマツ	1号 (300cc)	1,600 本
	クリーンラーチ	1号 (150cc)	700 本

## 9 ナラ枯れ被害拡大防止対策

ナラ枯れの被害に関する対応について、別紙「北海道内におけるナラ枯れ被害木等の伐採・移動に関する指針」（北海道水産林務部林務局森林整備課）に基づき適切に対応するほか、監督職員の指示に従うものとする。また、事前踏査及び事業実行中に被害木及び被害木と推定されるものが発見された場合は立木にテープ等で表示するとともに、位置情報を速やかに監督職員等へ報告すること。

誤



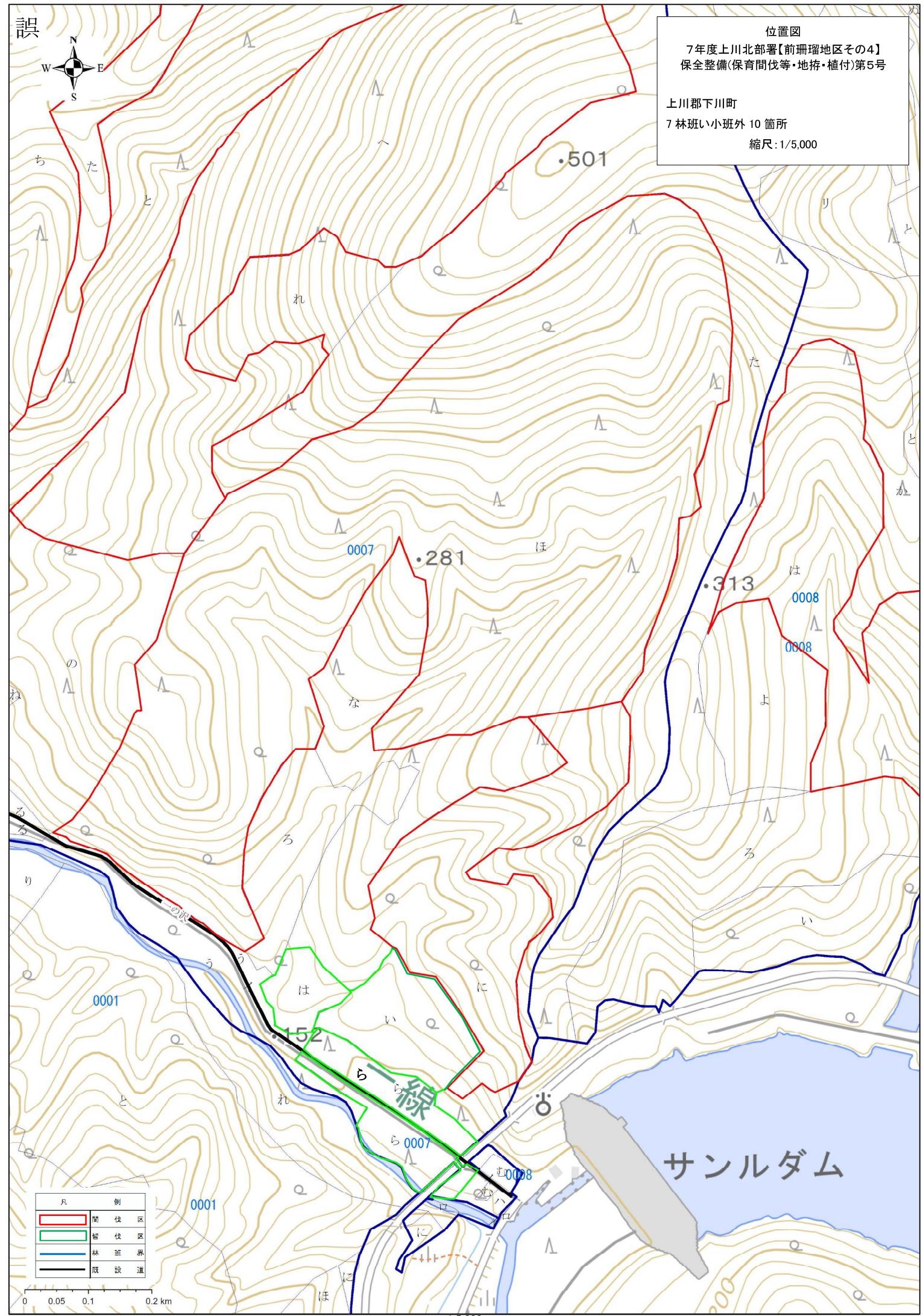
## 位置図

7年度上川北部署【前珊瑚地区その4】  
保全整備(保育間伐等・地柄・植付)第5号

上川郡下川町

7林班い小班外 10箇所

縮尺:1/5,000



凡例	
■	間伐区
■	皆伐区
—	林班界
—	既設道

0 0.05 0.1 0.2 km

1:5,000

